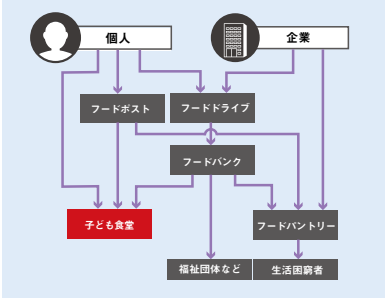
コロナ禍では、対面での食事の提供が難しくなったため弁当配布に。スタッフは声掛けを絶やしません。「コロナ禍で仕事が増え、料理の時間がなかなか取れないので、本当に助かっています」と利用者は話します。

子ども食堂

誰でも立ち寄れる居場所をつくる



さまざまなコンセプト

夜9時ごろ公園のベンチに座っている小学生くらいの兄弟を見かけ、「こんな夜中にどうしたの?」と聞くと、

「お母さんを待ってるの。家は誰もいなくって寂しいし、早くお母さんに会いたいから」

一般社団法人みんなのいえを運営する町田さん(特9ページに掲載)が、子ども食堂に携わるようになったきっかけです。

子ども食堂というと「貧困家庭への食事提供の場」というイメージを持つ方が多いかもしれませんが、そうではありません。例えば、孤食の解消のための「子どもにとっての共食の機会確保」を目的にしているもの、また「地域コミュニティの中での子どもの居場所づくり」など、その運営コンセプトはさまざまです。

市内では、11月15日現在で、5つの団体が運営しています。